

■ RubyWorld Conference 2010について

2010年9月6日～7日の2日間、RubyWorld Conferenceを今年も開催いたしました。昨年に引き続き、しまねOSS協議会の皆様をはじめとする様々な方にご協力いただき、無事盛会のうちに終えることができました。この場合を借りて、心よりお礼申し上げます。

2年目ということで昨年の経験を活かすとともに、今年は新しい試みも取り入れました。特に、今年からはじめた発表者の公募には、当初の予想を超えるたくさんの応募をいただき、急速大幅に公募枠を拡大しました。今まで聞いたこともなかったような先進的な事例の数々を紹介いただき、聴衆の方にも深く印象に残ったのではないかと思います。

来年以降も引き続きRubyWorld Conferenceを開催していきたいと考えていますが、継続開催にあたってはまだまだ色々課題もあります。関係者の皆様のご協力をいただきながら努力していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(Rubyアソシエーション 副理事長 前田修吾)

・スタッフによるコメント

今年の開催準備はいろいろあって少し出遅れてしまいましたが、新しい試みとしての発表者の公募で、海外を含め予想を超える応募があったり、楽天株式会社の三木谷会長兼社長の基調講演承諾もあって、準備も大変に盛り上がっていききました。限られた時間の中、事務局みんなで丸となって準備し、本番を迎えられたことに感動しました。また2日間の入場者の方々からの反応も大変よかったことから、関わってくださった企業・団体の皆さん、事務局の皆さんのRubyに対する思い、このイベントを成功させようという思いを大変強く感じました。まさに、情熱的なイベントだったと思います。参加者の皆様、関係者の皆様、本当にありがとうございました。(梅)



■ 今後の予定

平成22年11月27日(土) オープンソースカンファレンス2010 Shimane(松江テルサ)
平成22年12月8日(水) OpenOffice.org講習会 入門編(Calc)
平成22年12月15日(水) OpenOffice.org講習会 入門編(Calc)
平成23年2月19日(土) 松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト2011

■ 編者後記

先日、IPAによる「2010年度日本OSS貢献者賞・日本OSS奨励賞」受賞者の発表があり、しまねOSS協議会が奨励賞(団体)を受賞しました。今回のニュースレターには、原稿が間に合いませんでしたので、今回のニュースレターにて詳しくお知らせできればと考えております。

受賞を機に、増々活動の輪が広がれば良いなと感じるとともに、ニュースレターもまたその一助となるよう記事を充実させていかなければと身の引き締まる思いです。(きむら)

このニュースレターはOpenOffice.orgで作られています。



第八号(2010.11.05)

■ オープンソースサロンについて

・第53回オープンソースサロン・総会記念講演
日時： 2010年7月30日(金) 18時30分～20時00分

テーマ ユーザーの独立性を高めるオープンソース・ソフトウェア
話題提供 株式会社アシスト 代表取締役 ビル・トッテン氏

今回のオープンソースサロンは、総会記念講演ということもあり、立ち見が出るほどの大盛況のサロンでした。トッテン氏の希望でプロジェクターを使用しなかった為か、話に聞き入ることができ、会場に一体感が生まれていました。

トッテン氏が代表を務めるアシスト社はOpenOffice.orgのサポートビジネスのトップ企業ですが、同社がOpenOffice.orgに取り組む前は、オープンソースソフト(以下OSS)以外のソフト販売を中心にビジネス展開をしていたそうで、OSSの将来性に着眼し、導入を推進した結果、今ではOSをはじめ、社内で使用する多くのソフトをOSSに置き換えられたそうです。

今後のITビジネスに関しては、ソフト導入企業の立場になって考えると、中身が分からないソフトでは導入リスクが高く、中身がわかるという点でOSSの需要が高まっているのではないかとのことでした。

・第54回オープンソースサロン
日時： 2010年9月24日(金) 18時30分～20時00分

テーマ1 Rubyによる組み込みシステム向けウェブインターフェースフレームワーク Alone
講師 ファーエンドテクノロジー株式会社 前田 剛氏

RubyでWebサーバーといえばRailsですが、組み込み用途ではメモリ資源や応答速度の面で不都合な所があり、組み込みでも使える軽量なウェブフレームワークを目指してAloneを開発されたそうです。Railsとの比較結果を交えて説明され、非常にわかりやすかったです。また、文法もできるだけRubyのものを拡張せずに作成することで初心者が学びやすくなるように意識したそうです。

最近の組み込み機器はネットワークに接続できるものも多くなってきており、Aloneが組み込み分野におけるRuby普及の先駆けになる予感がしました。

テーマ2 中部IT協同組合のOSSへの取り組み
講師 合同会社島根OSS研究所 小敷賀 崇氏

自分の講演の説明なのですが、「中部IT共同組合」とは中部地方(愛知県、岐阜県、三重県)に本社・事業所のある企業の協同組合で、島根OSS研究所とは当協会が設立したものです。組合企業で共同受注をしながらOSSに取り組み、定期的に勉強会を開いています。

今年にはOSC 2010 Nagoyaでも活動内容の発表をし、今後もOSSに関する活動範囲が広がっていくと考えています。島根OSS研究所を通じて、島根県企業との連携も進めてまいります。

最後にオープンソースサロンのご案内をします。

参加費は無料で活動は月1回程度、金曜日の夜に松江オープンソースラボにて開催しており、会員以外の方でもご参加いただけます。毎回、サロン終了後に講演者を囲んでの懇親会があり、そこで普段は聞けない質問ができたりと情熱的な時間を過ごすことができます。事前にホームページで告知していますので、こちらをご参照頂き、是非ご参加ください。(小敷賀)

■ OpenOffice.org講習会について



文章作成、表計算、プレゼンテーション用のファイルを作成するときに使われるオフィスソフトですが、無料のOpenOffice.orgというのがあるをご存知でしょうか。しまねOSS協議会では、オープンソースソフトウェアとして公開され、文書を作成するために必要な機能を十分備えている無料のOpenOffice.orgを知ってもらい、より広く使ってもらうために無料の講習会を開催しております。

この講習会の内容は初心者向けのもので、入門編として文書作成(Writer)、表計算(Calc)、プレゼンテーション(Impress)の順番に、隔月で開催し、10月に4回目の講習会を行いました。毎回10名前後の参加があり、わからないことがあると何でも質問できるような和やかな雰囲気で行っています。本講習会の講師の評判はたいへん良く、参加者の中にはリピーターも多くおられます。

今回は表計算ソフトのCalcをテーマにして12月に開催する予定で、日程や申し込み方法などの詳しい内容はWebサイトにてご案内しております。興味のある方はWebサイトをご確認いただき、是非ご参加下さい。(きむら)

■ 会員企業紹介(第4回)

「雨降って地崩れる」前の「SOS」を「OSS」で

株式会社 藤井基礎設計事務所
技術士(土質及び基礎) 取締役技術部部長
藤井俊逸 様(写真右)
基礎設計室 リーダー(地質) 新宮敦弘 様(写真左)



—早速ですが、御社のご紹介をお願いします。

道路(橋・トンネル・斜面对策)や港湾施設の設計を行っています。これらの施設は大地の上で作るので、完成後に地盤が安全かどうかを判断する技術が大事になります。この技術を会社のコア技術としてきました。特に斜面災害に関する技術力は全国的にも評価されています。建設工事では、山を削り、谷には削った土を盛ります。このような人が作った斜面は大雨のときに崩れやすく、私たちは斜面が崩れたときに対応したり、崩れる前の斜面の安定性を判断したり、崩れないように対策をしたりすることを専門とし、OSSを利用した計測サービスを展開しています。

近年では、地球の環境を維持しながら人が生活するために「環境システム室」という部署を作り、水浄化装置の開発、土壌汚染の問題に取り組んでいます。また住民主役の地域振興をトータルサポートするために「地域戦略研究所」を作り、実際に産業が生まれるようなプロジェクトを展開し、昨年からは隠岐の島のジオパーク登録申請事業や、木からプラスチックを作る事業も行っています。

—斜面災害とOSS???何だか不思議な感じがしますが。

「雨降って地固まる」というのは稀で、「雨降って地崩れる」とこの方が多いのです。雨が降ったときに崩壊危険箇所に行って安全性を確認することは危険を伴う大変な作業です。そこで考えたのが「現地に行かなくても斜面の動きがわかる仕組み」です。専門知識を生かし、崩壊の危険性のある箇所を見つけ、その場所にセンサーを設置(伸縮計、歪計)して、地盤の動きを記録・監視します。センサーが変動を捉えると、携帯電話に連絡メールが自動で送られてきます。地盤の動きは携帯電話やPCからWebページでいつでも確認できます。



ほぼリアルタイムで現場の雨量と地盤変動情報を知ることのできる「DCのび太」。1時間に2mm地盤が動けば関係者に警戒メールが送信されるなど、迅速な対応が可能。

このような「雨降って地崩れる」前に「SOS」を出すサービスをOSSを利用して開発・運用しています。Linuxの上でrubyやperl, GCCなどを利用して軽量で高性能、カスタマイズしやすいシステムになっています。「必要なものは作っちゃおう!」という藤井基礎の哲学を支えるOSSです。

—ウェブサイトの構築にOSSを利用しているのですか?

Ruby・Perl・インターネットと聞くと、多くの人がRailsなどをイメージされると思います。当社はウェブ構築のみの利用ではなく、OSSを利用できる場面にはすべて利用しているといった感じです。先ほどの地盤変動計測や振動・騒音計測システムの数値計算などは、現場のPCでRubyを利用して処理しています。以前はOSS以外のソフトで作ったシステムを利用していましたが、不安定な運用が問題となりました。

当社のサービスは、工事関係者や災害地域周辺の住民の人命に関わるものです。停止してはいけないシステムだからこそ、速く軽いOSSを利用することで、安定した運用が可能になり、信頼性の高いサービス提供をできるようになりました。

—今までイメージしていたOSS利用とは違った感じを受けました。

そうですね。他業種のOSS利用とは一味違っていると思います。設計・建設業界で、このようなサービスを展開しているのは当社だけです。

ネット計測の技術は、「斜面の動きを捉える技術」だけではなく、「工事中の騒音や振動」をリアルタイムで測定して基準を超えたらお知らせしますというサービスや、「工事中の工程の時間記録」を携帯電話で簡単に管理できるサービス(携帯タイムスタンプ)などにも展開しています。もちろん、ここでもOSSが大活躍です。

「必要なものは作ってしまおう」という哲学は、OSSの精神と共通する部分がありますよね。

株式会社 藤井基礎設計事務所

昭和49年4月松江市東津田町で創業。記事にある設計の哲学と共に、土と基礎に関する技術への特化、施工時の土に関する問題の解決、個人の相談を断らないという思いを大切に、事業を展開している。本社と7つの事業所を持つ。

(インタビュアー:沼田)

■ Matsue.rbについて

2008年6月から島根県松江市を拠点に活動しているRubyコミュニティ「Matsue.rb」も活動開始から2年が経過しました。以前は勉強会形式で行い、講師の方をお呼びしていましたが、今年の3月頃からは「定例会」という名前でオープンソースラボに何人かで集まってRubyに関連する好きな事をやっています。例を挙げると以下のように様々です。

- * Ruby や Ruby on Railsの勉強
- * 自作サイトの構築
- * テキストからodt形式への変換ツール(rd2odt)の作成
- * Rubyリファレンスマニュアルの更新 などなど

9:30から17:30の時間内なら好きな時に入出力でき、メンバー同士で質問をし合ったりしながら、自分で決めたテーマに沿って作業しています。今のところ成果発表のようなものはありません。

まつえSNSの「Matsue.rb」というコミュニティにて、定例会の案内を月1回のペースで流しますので、興味がありましたら是非ともご参加ください。まだお会いした事のない県内Rubyistの方との出会いを楽しみにしております。(橋本)

■ 市民レガッタ参加報告

7/24、25に開催されました第27回松江市市民レガッタに「しまねOSS協議会」チームが出場しました。予選、敗者復活戦ともに、僅差で惜しくも2位となりましたが、初出場ながら大健闘でした。来年は、まず準決勝出場をめざしがんばりたいと思います。(倉橋)

成績 男子予選26組 第2位(1分50秒90)

男子2部敗者復活戦26組 第2位(1分45秒53)